

## 日本の大学と欧米の大学のちがいを考える

開倫塾

塾長 林 明夫

Q : 日本の大学と欧米の大学のちがいは何ですか。

A : (1)ちがいはたくさんあるように思えます。日本の大学の入学者は、高校を卒業した直後の方が大半で、18歳から25歳ぐらいの方が多いたが、欧米の大学は、高校を卒業した直後の方の他に、25歳過ぎの方もたくさん学んでいます。30歳台、40歳台、50歳台、の方もたくさんいます。60歳台、70歳台、80歳台の方もたくさん学んでいるのが欧米の大学です。

(2)欧米の大学ではなぜそのように多様な年代の方が学ぶのか。その理由は、欧米では1つの学部を出てから、また別の学部で学ぶことが普通だからです。大学の次に学ぶ大学院も同様で、1つの大学の大学院で修士課程や博士課程で学び、しばらくして別の大学の大学院の修士課程や博士課程で学ぶ方もたくさんいます。つまり、大学や大学院は1つだけでなく、いくつかに通い、いくつかの学部や大学院を卒業、修了する。これが欧米では普通のため、大学には多様な年代の方が混在するのです。

(3)日本の大学にも外国人が少しずつ増えてきましたが、欧米の大学には外国人の留学生がたくさんいます。半数以上が外国人である大学が普通です。日本の大学の学生の国籍は日本が大半ですが、欧米の大学にはいろいろな国籍の学生が学んでいます。欧米では、いろいろな国籍の学生が学ぶのと同様に、大学の先生、つまり教員もその国の国籍以外の方が数多く存在します。事務職員の国籍も多様です。このように欧米の大学の学生、教員、事務職員はその国の国籍をもたない人が数多く存在します。

(4)大学の授業や研究で使用する言語は、その国の言語も用いますが、英語も共通語として用いる大学が大半です。半分以上の授業を英語で行う大学は数多くあります。授業や研究活動のすべてを英語で行う大学・大学院も数多く存在します。外国人が一人でもいたら授業はすべて英語で行うことは大学の常識です。

(5)ですから、日本人の学生で欧米の大学や大学院で学ぶことを希望する人は、小学校・中学校・高校の内容は日本に在る間にできるだけ英語で身に付けておくことをお勧めします。大学の教育は高校の各教科の基礎知識を前提に行われるからです。日本語で理解していても、英語でその内容を学んでおかないと外国に留学してもサッパリ授業が理解できず、研究どころではないからです。

(6) 欧米の多くの大学の図書館は 365 日 24 時間開館しています。365 日 24 時間開いている図書館を活用しないと完成しないような宿題、課題が毎日山ほど出るためです。欧米の学生は原則、金曜日の夜しか遊びません。土曜日の朝から日曜日は一日中勉強です。月曜日から金曜日の平日も一日中勉強。下宿や図書館で一心不乱に学び続けるのが欧米の学生です。

(7) 欧米の学生はよくディスカッションをします。ディスカッションをするとき、外国人が一人でもいたらそこで用いる言語は英語となります。ディスカッションをするときには相手の目を見て、まずじっくりと相手の考えを聞きます。自分の意見を述べるときにも相手の目を見て、「こうだから、こうだ」と論理的にはっきりとわかりやすい発音・発声で述べます。相手の目を見て人の考えを聞くのが、欧米の大学の特長です。そのため、相手の目を見て自分の考えを述べます。欧米の大学に留学し、よく勉強した日本人に共通する特長は、相手の目を見て話を聞き、相手の目を見て話をする事と言えます。

(8) 欧米の大学では、人の話を聞くときには相手の目を見て話を聞くこと、話をするときには目を見て話をする事がコミュニケーションの上でとても重視され、社会のマナーとなっています。目をそらすことは、あまり好まれない場合が多いようです。

御参考まで。

以上